

インターバンクの声（2015年12月29日）

日頃ニューヨーク勤務の友人とは足許や先行きの相場見通しやポジションの傾きなどについてのやり取りをしているが、12月の半ば頃からはもっぱら現地金融機関に勤務する方々の出社率を話題にすることが多くなった。昨日もロンドン市場がボクシングデーの振り替え休日のため休場とあって、ニューヨーク勢の出社率は30~40%くらいだったらしい。これではいくら原油価格の下落、ドイツやフランスの株価が下がっても為替市場に大きな反応は出難い。いよいよもって主要通貨は現状のレベルに近いところでの越年になりそうな気配になってきたが、だからと言って飛行機や船舶の自動操縦のように取引を機械任せにするのはまだ無理だ。一昨年に浮上した海外市場でのフィキシング価格を巡る不正取引疑惑などもあって、BIS（国際決済銀行）や各銀行の自主的な内部規制なども厳格化され、自己裁量で取引を行うプロップトレーダーの数も激減している。単純に企業やファンドマネージャーからの注文を市場で捌くような取引が中心では、かつてのように年がら年中相場が大きく動くことは減りつつあるのかも知れない。その意味でも機械任せが増えそうな将来だが、むしろ優秀なトレーダーの存在意義が高くなってくるのも間違いないはずだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。